

「アブラハムに見る型」

(ローマ4・13〜25)

一、ユダヤ人について

ローマに興された教会、すなわちイエス・キリストを主と信じる人たちの群は、少数のユダヤ人キリスト者と多数の異邦人キリスト者から構成されていたようです。ユダヤ人キリスト者たちは、少数派とは言え、なかなかたいへんな人たちだったようです。そういう彼らを指導できるのは、熱烈なユダヤ教徒からキリスト者になったパウロにしかいませんでした。パウロはパリサイ派で、生粋のユダヤ人でしたから、ギリシア文化の教養を身につけていたユダヤ人よりも格が上でした。

二、ユダヤ人キリスト者へ

ユダヤ人キリスト者は、異邦人キリスト者がイエス・キリストを信じるだけで神の前に義とされること、すなわち罪の問題を不問にされ、自分たちと同じ祝福に与れることに、どうしても納得できなかったようです。そこでパウロは、アブラハムを引き合いに出して、今一度語ります。13節です。へといふのは、世界の相続人となるという約束が、アブラハムに、あるいは彼の子孫に与えられたのは、律法によってではな

く、信仰による義によってであったからです。と。ユダヤ人キリスト者は、イエス・キリストを信じる信仰によって神から義と見なされることについては、分かっています。「そうではあっても、律法は清い教えであり、律法も必要でしょ」と考えていたと思われれます。今の私共にとって、律法とは旧約聖書ですが、いかがでしょうか。「旧約聖書が語っているのは清い教えであり、旧約聖書も必要でしょ」と思いませんか。異邦人キリスト者である私共がそう受け止めるわけですから、ユダヤ人キリスト者が疑問に思うのはもつともです。そこでパウロは続けて語ります。14節です。へもし律法による者たちが相続人であるなら、信仰は空しくなり、約束は無効になってしまいます。と。14節の冒頭には、原文には「なぜなら」ということばが入っていますので、前の節の説明であることが分かります。「あなた

がたは、イエス・キリストを信じる信仰によって神から義と見なされることについては、分かっていますよ。ね。ですが、罪から救われるという恵みに、旧約聖書のことばを守ることが条件であるという制約を付けてしまうと、イエス・キリストを信じることによって神から義と見なされるという約束は無意味になってしまつたのです」と語っています。さらに続けます。15節です。へ実際律法は御怒りを招くものです。律法のないところには違反ありません。と。15節の冒頭にも、原文には「なぜなら」ということばが入っていますが、前に述べたことの理由を理路整然として語ったというよりも、「何とか分かってほしい」という、パウロ先生の情熱のようなものを感じます。こうして、16節に進みます。今のようなわけで、すべては信仰によるのです。それは、事が恵みによるようになるためです。こうして、約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持つ人々だけでなく、アブラハムの信仰に倣う人々にも保証されるのです。アブラハムは、私たちすべての者の父です。と。主イエス・キリストを信じた異邦人も、主イエス・キリストを信じたユダヤ人も全く同じく、アブラハムの子(子孫)になると語っています。まさしくこれが福音です。さてパウロは、自らが語っていることの論拠を、旧約聖書の解き明かしに置いていきます。それが、17節以降で述べていることです。へわたしはあなたを多くの国民の父とした」と書いてあるとおりです。彼は、死者を生かし、無いものを有るものとして召される神を信じ、その御前で父となったのです。とあります。

三、「信仰」を考える

信仰とは何なのでしょう。パウロはアブラハムを例に挙げて語っています。18節です。へ彼は望み得ない時に望

みを抱いて信じ、「あなたの子孫は、このようになる」と言われていたとあり、多くの国民の父となりました。と。へ望み得ない時に望みを抱いて信じ」とは、どういう意味なのでしょう。19節で語られています。へ彼は、およそ百歳になり、自分のからだですでに死んだも同然であること、またサラの胎が死んでいることを認めても、その信仰は弱まりませんでした。と。その信仰が、義と認められました。すなわち、神が良しとして認められたわけです。22節です。へだからこそ、「彼には、それが義と認められた」のです。とあります。こうして、パウロが語らんとする結論に進んで行きます。23節、24節です。へしかし、「彼には、それが義と認められた」と書かれたのは、ただ彼のためだけでなく、私たちのためでもあります。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、義と認められるのです。とあります。すごい「ひねり」と言います。うか、強引な展開にも見えますが、要はユダヤ人キリスト者に対して、主イエスが、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、ユダヤ人も異邦人もキリストを信じるだけで義と認められることを分かっただけで、語ったものと思われませんか。パウロ先生の語り方は強引に見えます。パウロ先生の福音そのものです。